

公立大学法人 大分県立看護科学大学

令和3事業年度の業務実績に関する
項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和4年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

令和3事業年度の業務実績評価（大項目評価）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、24項目の全てがIV（上回って実施している）の評価であること。
- ②教育内容の改革として、各科目の学習目標、内容を見直した令和4年度新カリキュラムを文科省へ申請するとともに、令和4年度からの運用開始に向けてカリキュラムマップを作成するなど、着実に準備を行っていること。
- ③卒業生の県内就職率は増加傾向にあり、県内の医療機関や自治体に就職するなど県内地域医療への貢献に繋がっているほか、大分県の健康寿命日本一の達成に向けて、健康寿命日本一おおい創造会議に参加し、様々な事業に取り組んでいること。
- ④COVID-19感染拡大の中でも、オンラインの活用により、MOU締結校である韓国 Inha 大学やインドネシア ムハマディア大学と積極的に国際交流が行われていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・教育内容の改革として、各科目の学修目標、内容を見直した令和4年度新カリキュラムを、令和3年4月に文科省に申請した。
 - ・令和4年度から始まる新カリキュラムに備え、新旧カリキュラムの移行期間にスムーズに対応できるよう準備を整えた。
 - ・学内進学者の増加に向けて、NPコースでは学部4年次生から地域枠特別選抜制度を開始した。
 - ・在学生にアンケートを実施し、勤務や体調管理面に配慮して週2日昼夜開講に変更するとともに、学生による授業評価も参考にして令和5年度改正を目指してカリキュラムの見直しを開始した
 - ・NPコースでは特定行為研修に関して、1行為5症例以上を体験することが求められるようになったが、実習施設の協力を得て多くの補習を行い、全員が必要な症例数を確保した。
 - ・看護師国家試験は、早期のガイダンスや対策セミナーを実施し、100%の合格率を達成した。
- 教育の実施体制
- ・看護水準向上をはかるため教育環境を整備する目的で看護学実習室の近代化タスクグループを設置し、教育方法の改善・改革を行った。

- ・NP コースでは、週 2 日を昼夜開講に移行し、また、オンラインによる双方向型の遠隔授業としたことで、県外や県北で勤務している受講生の利便性を改善した。

○学生等への支援

- ・自己学習能力を高めるオンライン授業の工夫を行うとともに、看護学実習室の近代化を図るため、IT 等を活用した教材の導入を進めた。
- ・主体的に学習できるための雰囲気づくり、模擬試験結果の分析とフィードバック、集中セミナーなどを実施し、看護師の国家試験合格 100%を達成した。
- ・県内に就職している卒業生と在学生の交流を通して、進路選択に向けた活動の動機づけをはかることで、県内就職率 50%以上を達成した。

○研究の方向

- ・県内企業との健康食品の共同研究で特許を取得し、また、県内の履物メーカーとの共同研究のパイロットスタディを実施した。
- ・学内競争的研究費である「プロジェクト研究」で、大分県に貢献する研究や県内の医療職との共同研究を推奨することとした。
- ・地域医療の向上に向けて、大分県中小規模病院等看護管理者支援事業を国東地域と宇佐中津地域で行った。

○研究の実施体制

- ・学内競争的研究費の募集を行い、奨励研究 1 件、先端研究 3 件、プロジェクト研究 1 件の新規応募があった。5 月 12 日に FD/SD 委員会主催の審査会（審査員 7 名）で審査し 5 件を採択した。審査結果により助成額を決定し、令和 2 年度に採択された 2 年目の継続研究課題と合わせて、令和 3 年度は奨励研究 1 件、先端研究 5 件、プロジェクト研究 1 件への助成を行った。これらの研究成果（進捗状況）は、3 月 7 日のアニュアルミーティングで報告された。
- ・公正推進協会の e-ラーニングプログラム教材 eAPRIN を活用し、大学院生は、看護科学研究の科目に併せて eAPRIN の倫理教育を含めて単位を認めることとし、修士、博士の研究を開始する 1 年次生は 100%を達成した。

○地域社会への貢献

- ・学部卒業生 34 名（平成 30 年度）、34 名（令和元年度）、33 名（令和 2 年度）、36 名（令和 3 年度）、大学院では保健師 6 名、助産師 4 名、診療看護師 3 名（平成 30 年度）、保健師 4 名、助産師 4 名、診療看護師 1 名（令和元年度）、保健師 2 名、助産師 4 名、診療看護師 3 名（令和 2 年度）、保健師 6 名、助産師 3 名、診療看護師 5 名（令和 3 年度）が、県内の医療機関等に就職した。
- ・医療施設から看護研究支援の新規の依頼があり、前年度より 1 つ多い 5 つの県内医療施設に 11 名の教員を看護研究支援に派遣した。
- ・健康寿命日本一おおい創造会議に参加して、様々な事業に取り組み、大分県の健康寿命日本一の達成に協力した。
- ・大分県の依頼で開発した「めじろん元気アップ体操」の動画（大分県庁、YouTube）は再生

回数が31万回を超え、また、県内7つの市町村ではケーブルテレビで毎日複数回放送されており、高齢者福祉施設ではこれを見ながら利用者が体操をしている。

○国際交流の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の流行状況及び対応のために、第23回看護国際フォーラムをZoomウェビナーで開催した。テーマを「コロナ禍における看護職のメンタルサポート」とし、米国から1名の講師が録画プレゼンテーション、国内から1名の講師がライブプレゼンテーションをした。参加者は208名と大盛況であり、その内訳は韓国3名、米国1名、日本の県内外から204名だった。参加者アンケートの結果では講演内容について94%、質疑応答について93%が「とても満足」「ほぼ満足」と回答しており、高い満足度を示していた。
- ・MOU締結校である韓国Inha大学の看護学生とオンライン交流会を開催した。また、同じくMOU締結校であるインドネシアムハマディア大学主催のオンライン国際学会に招聘され、教員がシンポジストを務め、学部生3名が参加した。

○産学官連携の充実強化

- ・県内企業との健康食品の共同研究で特許を取得し、また、県内の履物メーカーとの共同研究のパイロットスタディを実施した。
- ・知的財産本部規程、公的研究機関/外部民間企業との共同研究に関わる規程類、発明等の研究成果物に関わる規程を策定し、共同研究によって生じた知的財産を管理運営するための知的財産本部を立ちあげた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教育	12				12
研究	4				4
社会貢献	8				8
合計	24				24

(注) 大項目評価は、III及びIVの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がIII又はIVの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- コロナ禍においても、看護師国家試験の合格率100%を達成し、県内就職率は前年度と比べて大幅に改善（48.5%から54.5%へ改善）したことは、優秀な実績で高く評価する。
- 地域の医療福祉機関や大分県の施策への貢献は大きい。
- 平成30年度以降、本学は全国ならびに九州においても屈指の看護科学を専門とする大分県立

の公立大学として、教育理念と看護・看護学の魅力や将来性を社会に周知するため、開学 20 周年看護国際フォーラムや公開講座・研修会などの地域活動を学内外で広範囲に実施し、学部及び大学院における看護教育の意義と魅力を発信してきた活動は高く評価する。

- 令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染拡大を受け、対面での活動が自粛せざるをえない状況の中、不撓不屈の意志を発揮しながら新たにオンラインを用いて実施すると同時に大学ホームページ、Web オープンキャンパスなどを駆使している。ローカルな立場から、より広い社会や日本全国に向けて看護・看護学の魅力や将来性を発信する手立てとして遠隔＝オンライン手法の導入は待ち望まれていたことであり、令和 3 年度には大学ホームページで情報発信につとめ、オープンキャンパスはオンラインで LIVE 配信し、公開講座は「ステイホームのいまだからこそアラフォーから足腰の健康を考えよう！健康寿命日本一の実現」というテーマでオンライン開催するなど、コロナ禍での取り組みは出色であり高く評価する。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、11項目の全てがIV（上回って実施している）の評価であること。
- ②学長が学内の負担を数値化し、学内の理解を得た上で平等化に向けた運営体制の改革をおこなっていること。
- ③教育や研究の持続的な改善のため、内部質保証推進会議を設置し、認証評価の指摘事項を改善できるように体制を整備していること。
- ③教員評価に、学生による授業評価アンケートの結果を活用し、教育の改善を図っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制の強化
 - ・学長を兼ねる理事長が、学内の負担を数値化し、教育研究審議会で平等化に向けて討議するとともに、その後、学内全体に説明を行い、理解を得て、人間科学講座から、看護学のポストを移行した。
 - ・教育研究の持続的な改善のために、内部質保証推進会議を設置し、認証評価の指摘事項を改善できるように体制を備えた。
 - ・学外理事及び経営審議会委員や学外の識者の意見を大学運営に活用した。
- 人事・労務管理の適正化
 - ・教員評価では、学生による授業評価アンケートの結果を活用して教員に反省や次年度の目標の設定を求めることで、各教員がPDCAサイクルを活用して教育の改善に教員評価を活かせるようにした。
- 開かれた大学運営
 - ・教員を特定行為研修指定研修連絡会理事会、特定行為研修制度の普及促進に関する委員会、国立保健医療科学院評価委員会等に派遣し、連携を深め、情報を収集し、大学運営に生かすとともに、地域に貢献した。
- 人材の育成
 - ・FD/SD委員会が、自身の能力向上のために、オンラインも含めた他機関主催のFD/SD研修会の情報提供を全教職員に計31回行い、積極的な参加を促した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	5				5
人事の適正化	6				6
合計	11				11

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 「2030年に向けた本学の課題と解決策」の策定や「内部質保証推進会議」設置は理事長・学長の強いリーダーシップで実現できたものであり高く評価する。今後も、しっかりと業務運営の改善・効率化に努めていただきたい。
- 本学内での課題の洗い出しと改善への取り組みが基となり、教育研究の持続的な改善が進んできた。そこから内部質保証推進会議が設置され、認証評価へ体制を整え、持続的な組織改革が進められている。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、10項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②授業料の滞納防止のため納入が遅延している保護者・学生に対して随時連絡を取り、助言や指導を行い、分割等計画的な授業料納付に導き滞納が解消していること。
- ③外部資金に関する積極的な情報収集と、公募について全職員への周知を徹底し、4,000万円を超える外部資金を獲得していること。
- ④両面コピーやミスコピー用紙の再利用、カラー印刷を必要最小限にとどめるなど、年間を通して教職員と学生が一体となって資源の有効活用、経費の節減に積極的に取り組んでいること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己収入の確保
 - ・授業料の滞納を防止するために、納付が遅れている学生に対しては、必要に応じて担当教員の協力のもと助言や指導を行い、分割納付申請や延納申請などの手続きを勧め、円滑な授業料納付に導き、滞納が解消した。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の貸出は県内の感染状況を見ながら貸出し、年間のテニスコート及び講義室等の貸出実績は95件であった。
- 外部資金の獲得
 - ・外部資金の公募情報を積極的に収集のうえ、公募について全教員へ周知し、4千万円を超える外部資金を獲得した。
- 経費の効率化
 - ・書類整理方法の見直し、両面コピーやミスコピー用紙の再利用の徹底、コピー機の契約方法を変更したことで、前年度よりコピー代が3.3%減少した。
 - ・液化天然ガスなどの輸入価格の上昇により電気代が大幅に高騰したが、料金プランの見直しにより、高騰の影響が最小限に抑えられた。
- 資産の適正管理
 - ・県の保全計画に基づき、管理棟と実習研究棟の屋上防水工事および冷却塔・冷温水発生機の更新工事を実施した。

○資産の有効活用

・教職員用の予約 Web システムの運用により、施設設備の有効利用と管理を効率化した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己収入及び外 部資金の獲得	3			1	2
経費の効率化	3			1	2
資産の適正管 理・有効活用	4			2	2
合 計	10			4	6

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○外部資金の獲得が前年度よりも 13 百万円あまり減少している。この何年かは 50 百万円台だったが 44 百万円程度に減少している状況。安定的に 50 百万円台の資金が獲得できるように努められたい。

○経費の効率化については電気代料金プランの見直しに努めるなどの努力をされており評価できる。

○授業料の滞納解消は評価できる。

○本学施設の社会的活用に関しては、本学の教育研究に支障のない範囲で、積極的に施設等を適正な料金で貸し付け、自己収入に繰り入れてきたが、令和 2 年度からの新型コロナウイルス感染拡大を受けやむなく一時中止を余儀なくされた。しかし大学ホームページ施設案内を用いて、感染状況を適切に見極めながら予約受付期間等を掲載、地域住民等が利用しやすいよう周知する取り組みは高く評価できる。

○大学の運営の根幹とも言える施設環境の運営に関しては、教職員のコスト意識を育み、執務環境の改善、業務の迅速化など事務の効率化を進める工夫を重ねており高く評価できる。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、5項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②令和4年度に受審する大学機関別認証評価のために、受審先である大学教育質保証・評価センターのオンライン説明会／研修会に参加するとともに、学内の全教職員を対象とした機関別認証評価に関する研修会を開催していること。
- ③新型コロナウイルス感染症拡大により学生の活動が制限される中、大学ホームページを活用し、オンラインオープンキャンパスや公開講座等大学のイベントを速やかに発信していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
 - ・年報の作成及び各委員会等の議事録の確認を通じて、継続的にチェックを行った。
 - ・内部質保証推進会議を設置した。
 - ・学内教職員全員を対象とした機関別認証評価に関する研修会を大学教育質保証・評価センターの事務局長および自己点検・評価委員会正副委員長を講師として開催した。
- 情報公開や情報発信の推進
 - ・基本的法人情報の公開・更新を継続し、理事会等の議事概要を速やかに大学ホームページで公開した。
 - ・公式 Facebook で、大学の特色や入試情報などを充実させ、50 件以上を掲載した。
 - ・令和4年度版大学案内 9000 部を作成した。出前授業、進学相談時に本学に関心をもつ学生や保護者、高等学校に配布し、本学の認知度の向上や大学生活の具体的な説明などに活用した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	2				2
情報公開 ・情報発信	3			2	1
合計	5			2	3

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 本学は県立の大学として地域社会に大いに貢献していると同時に期待もされている。しかし、それらの活動がなかなか県民には十分に届いていないように思う。なお一層の情報発信をお願いしたい。
- ホームページやFacebook等のインターネットを活用して、様々な活動の情報発信をしてほしい。
- 昨今のインターネット状況を鑑みた場合、大学の教育研究活動の状況や活動成果を大学ホームページで定期的に情報発信し公開することは必須であるが、令和2年度からの新型コロナウイルス感染拡大の社会的状況を克服するためにも、さらなる非接触型とも言えるインターネットを活用した情報化への取り組みが求められる。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②委員会選定及び学生リクエストによって新たに1,768冊の蔵書を整備するとともに、データベース医中誌Web版を学外からも利用できるようにしていること。
- ③BCPに基づき、令和3年11月18日に教職員及び1年次生を対象に地震を想定した防災訓練を実施していること。
- ④令和2年度取組のもとに、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成していること。また、同マニュアルに基づき、オンラインによる授業の実施、学内の消毒、外部者への施設の貸出し中止などを行っていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
 - ・委員会選定及び学生リクエストによって新たに1,768冊の蔵書を整備した。
 - ・データベース医中誌Web版を学外からも利用できるようにした。
 - ・「国際エネルギースタープログラム」「グリーン購入法」「エコマーク」の全てに適合している機器を条件として入札を実施し、環境対策に努めた。
- 大学の危機管理
 - ・BCPに基づき、令和3年11月18日に教職員及び1年次生を対象に地震を想定した防災訓練を実施した。また、教職員及び全学生に向けて安否確認メールを訓練送信し、危機管理体制の点検を行った。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し、同マニュアルに基づき、オンラインによる授業の実施、学内の消毒、外部者への施設の貸出し中止などを行った。
- 人権尊重の推進
 - ・令和4年3月7日に、Zoomによる人権研修を実施し、教職員65名が参加した。
 - ・オリエンテーション等を活用し、ハラスメント相談事業について定期的周知活動を行った。11月29日に対面及びオンラインにより、セクハラ・パワハラ・アカハラに関するハラスメント研修会を開催し、教職員69名が参加した。
- 情報管理の徹底
 - ・学生及び教職員を対象としたセキュリティ講習会を開催した。また、情報セキュリティに

関する規程類の見直しを実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備・活用	3				3
危機管理	2			1	1
人権尊重の推進	2			1	1
情報管理の徹底	1				1
合 計	8			2	6

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 本学の県立大学としての役割として、地域社会への貢献・地域の医療福祉機関へのサポートは大変重要なことだと思う。教育・研究のレベルを上げ優秀な人材を輩出するとともに、他方で地域の医療福祉機関への支援の更なる強化をお願いしたい。
- 新型コロナウイルス感染防止に向けた対応は評価できる。
- 全学での防災訓練等実施や「事故・災害時における危機管理マニュアル」の改定、災害時の危機管理体制の整備を通して、これまでも教職員及び学生への危機管理意識の向上及び事故・災害時の安全確保を図ってきたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症のための対策が加わることとなったため、継続的な取り組みが期待される。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 教育内容の改革として、各科目の学修目標、内容を見直した令和4年度新カリキュラムを、令和3年4月に文科省に申請するとともに、令和4年度から始まる新カリキュラムに備え、新旧カリキュラムの移行期間にスムーズに対応できるよう、カリキュラムマップやカリキュラムツリーの改訂や、新たに、アセスメントポリシーやアセスメントチェックリストを作成するなど、着実に準備を行っていること。
- ③ 看護学実習室の近代化タスクグループを設置しIT等を活用した教材を導入するとともに、文部科学省のウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業費（令和3年度補正予算）を獲得するなど、学生の学習環境を整備する取組を進め、さらに模擬試験結果の分析・フィードバックや集中セミナーなどを実施した結果、看護師の国家試験合格100%を達成したこと。
- ④ 理事長が全17研究室の教育負担が見える化し、そのエビデンスに基づいて「2030年に向けた本学の課題と解決策」を打ち出し、教育研究審議会の了解を得ながら人員配置を変更し、新しい研究室（社会看護学）を新設するなど、理事長が強いリーダーシップを発揮し、効果的な運営体制の改革を行っていること。
- ⑤ 新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止のため、昨年度に引き続き感染状況に合わせて対面授業とオンライン授業を組み合わせた教育を行うとともに、教育研究審議会や各種委員会、オープンキャンパス、大学院説明会、卒論発表会等多くのイベントをオンラインで開催することに加え、MOU締結校とオンラインで国際交流を推進するな

ど、臨機応変の対応が取られたこと。

<委員会からのコメント>

- 全体として、年度計画が順調に実施されていると評価する。
- コロナ禍の制約ある環境下で十分な実績を挙げている。特に、看護師国家試験 100%の合格率、県内就職率の前年比大幅改善（48.5%⇒54.5%）は素晴らしい成果。
- 地域の医療福祉機関や大分県の施策への貢献大。
- 教育・研究のレベルを上げ優秀な人材を輩出するとともに、他方で地域の医療福祉機関への支援の更なる強化をお願いしたい。
- これからも大分県の看護のリーダーとなる人材養成をお願いしたい。
- 社会情勢を注視し、学部、大学院ともに、地域の根付く大学づくり、地域の看護の質向上に尽力している。さらに、看護の発展、日本の看護を先導する教育を行っており高く評価できる。
- 卒業生や修了生、指導者の声を大切にし、教育に反映されていることも高く評価できる。
- 平成 30 年度以降、本学は全国ならびに九州においても屈指の看護科学を専門とする大分県立の公立大学として、教育理念と看護・看護学の魅力や将来性を社会に周知するため、開学 20 周年看護国際フォーラムや公開講座・研修会などの地域活動を学内外で広範囲に実施し、学部及び大学院における看護教育の意義と魅力を発信してきた活動は高く評価する。
- 令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染拡大を受け、対面での活動が自粛せざるをえない状況の中、不撓不屈の意志を発揮しながら新たにオンラインを用いて実施すると同時に大学ホームページ、Web オープンキャンパスなどを駆使している。ローカルな立場から、より広い社会や日本全国に向けて看護・看護学の魅力や将来性を発信する手立てとして遠隔＝オンライン手法の導入は待ち望まれていたことであり、令和 3 年度には大学ホームページで情報発信につとめ、オープンキャンパスはオンラインで LIVE 配信し、公開講座は「ステイホームのいまだからこそアラフォーから足腰の健康を考えよう！健康寿命日本一の実現」というテーマでオンライン開催するなど、コロナ禍での取り組みは出色であり高く評価する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり